

症例 2

●30歳 男

健康。運動直後の心電図。



- 1) このリズムは何か。
- 2) 治療の必要性はあるか。

心電図診断

洞頻脈

QRS波と1対1に対応するP波を認める。

RR間隔は約0.38秒でほぼ一定(心拍数156/分)。

QRS幅0.08秒、PQ時間は0.14秒で一定。

解 説

成人では心拍数100/分以上の洞調律を洞頻脈という。通常は毎分180/分以下であり、180/分以上になる場合には発作性上室性頻拍、心房粗動、心室性頻拍などを考慮しなければならない。

洞頻脈は生理的には運動、精神興奮などでおこり、病的には発熱、貧血、甲状腺機能亢進、心不全でみられる。

治療は基礎疾患を治療すればよく、洞頻脈そのものは治療の対象にはならないが、精神的な原因で洞頻脈が続く場合には精神安定剤、 β ブロッカーなどを用いることもある。